



甲羽路
 諸靈場
 延山嶺
 往詣順
 導寺記

八 4
 2722



ハ 4

2722

甲加路
諸靈場
延嶺往詣頌導記

甲刃部乃内庭新相ヶ野延山との石
以石不道在の石順上小出本山合定

○ひらのふ山の末 □ひいけいけい

中 下字 中山の末 上 林 本 末

◇ 下字 ひらの末 宗 林 本 末

⑤ 甲 品 ききとく山 ⑥ 甲 品 山 末

⑦ 甲 品 山 末 ⑧ 甲 品 山 末

⑨ 甲 品 山 末 ⑩ 甲 品 山 末

⑪ 甲 品 山 末 ⑫ 甲 品 山 末

⑬ 甲 品 山 末 ⑭ 甲 品 山 末

そお山八其上子紀未は中用茶証也

下流石の別乃又字も新の石順
○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

○江戸河の石順上小出本山合定

甲刃路 諸霊場

延山領順導記

附信加越後 灵場道順

東都雜司谷櫃下

金子宗周一相藤直徳撰

江戸日本橋より四谷内庭新相ヶ野延山との石順
江戸日本橋より四谷内庭新相ヶ野延山との石順
江戸日本橋より四谷内庭新相ヶ野延山との石順

日本橋

本町 四十七又
本町 四十四又
本町 四十二又

日本橋より四谷内庭新相ヶ野延山との石順

江戸日本橋より四谷内庭新相ヶ野延山との石順

内庭

本町 四十八又
本町 四十五又
本町 四十二又

内庭より四谷内庭新相ヶ野延山との石順

甲刃路

上八 八五も有通 甲加本道

物着おひけふた入新町徳也なるが
大め着ももえんたひんぼいづと村あり

下八
たういご
系ニリキ下 本 九十九又
百子千有る 町 六十九又
地やとんや 人 二十又

日のかそ
清月山 □ 影影有る
日のかそ
敷昌山 小 宗 塚も

是のがす山まきん其の村あり
五は是のふひ村をさすとも系

下八
恨奥山 □ 道茶も
系ニリキ下 本 九十九又
系有る 町 六十九又
地やとんや 人 二十又

下八 整樹通 其并 甲加の別

物着おひけふた入新町徳也なるが
大め着ももえんたひんぼいづと村あり

下八
たういご
系ニリキ下 本 九十九又
百子千有る 町 六十九又
地やとんや 人 二十又

日のかそ
清月山 □ 影影有る
日のかそ
敷昌山 小 宗 塚も

是のがす山まきん其の村あり
五は是のふひ村をさすとも系

下八
恨奥山 □ 道茶も
系ニリキ下 本 九十九又
系有る 町 六十九又
地やとんや 人 二十又

はるはる不不とあや上その下の村あり

入相老有る言次をいひてその村あり

ひるやまの山あり 橋あり 二丁又
ひの、ニリキ下 本 九十九又

高和合小の神の社あり 徳也なるが

のふの徳也なるが △ 神あり 徳也なるが

いる小の徳也なるが △ 神あり 徳也なるが

徳也なるが △ 神あり 徳也なるが

ひの

系ニリキ下 本 七十八又
系有る 町 五十九又
地やとんや 人 四十又

甲加身止記

はるはる不不とあや上その下の村あり

入相老有る言次をいひてその村あり

ひるやまの山あり 橋あり 二丁又
ひの、ニリキ下 本 九十九又

高和合小の神の社あり 徳也なるが

のふの徳也なるが △ 神あり 徳也なるが

いる小の徳也なるが △ 神あり 徳也なるが

徳也なるが △ 神あり 徳也なるが

七十八又

高初合天主の社ひの系也。ひ初の南
とまの工藤正吉先公八景楼出流

七

七十八文
七十九文
八十文
八十一文
八十二文

高初合天主の社ひの系也。ひ初の南

同山本立院日蓮上人御筆上志堂御宗

同山本立院日蓮上人御筆上志堂御宗

同山本立院日蓮上人御筆上志堂御宗

同山本立院日蓮上人御筆上志堂御宗

同山本立院日蓮上人御筆上志堂御宗

くち花通り。江戸介中野村の田

なを初田すか川。うしをま

二のや承造いふはう。入日市あり

ひのたき。くちを初田所

か。本村。うさう。うさう。うさう

おづく村。や。男。初つる。初。初。初

は。初。初。初。初。初。初。初。初

くち。初。初。初。初。初。初。初。初

くち。初。初。初。初。初。初。初。初

くち。初。初。初。初。初。初。初。初

くち。初。初。初。初。初。初。初。初

くち。初。初。初。初。初。初。初。初

くち。初。初。初。初。初。初。初。初

い。今。去。樹。林。の。境。の。た。り。き。り

ふ。山。の。ふ。ま。と。や。む。大。湖。さ。あ。い。か

さ。さ。か。い。及。神。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

い。と。あ。り。大。湖。の。た。り。き。り。の。た。り

二花ヶ

おろし下平 本百五十二
やとを合之幸七 人七十五

遠南より山へと降りて武蔵のり
根之澤のり下平丁川流のり
一丁下平流のり二十丁のり
この村は山の下にある

おむら

よの二十十七丁 本百十七
よせと十七丁 本百十七
よんや 本百十七
ふんや 本百十七

い初めこの村といはさこのるの光

よせと十七丁のり山の下にある

細のり山の下にある

りて川あり

ささきとの落合

よしの

よしの二十十七丁 本百十七
同や下平 本百十七
ゆりいれ 本百十七

い初めこの村といはさこのるの光

このり山の下にある

せきの

このり山の下にある

い初めこの村といはさこのるの光

ふ山は甲加海の大月の宿

おむら

用山は老天目上

上吉田

者宗祖

い隣

い社

い本

い七

い初

い本

い口

い初

りと山田を流す川小松橋を相協
のさく川云坂迄之下に流るるとす川の
此國所被る所をこすの社日村集

うの心
つるこ十八丁 本 廿五文
同 廿七文
いぢもとのや 人 廿七文

高橋より此坂を有りつるふちの
忍びなきもあるた有けたるあり

北あが、
しりか、
のさく川 廿五文
ふちのや 廿七文
人 廿七文

此坂のふちと云ふは一先なるあり
山更の森大のみ村は山風常は先
はこも通と云ふ地も似て修るのあり也

宿ありつるふちの南に右の方にて近
と云ふ由年次にて目するふちあり

毎年三月廿七日の酉にふるん
あつと云ふは村あり此辺に

のさく
いぢもとのや 廿五文
同 廿七文
人 廿七文

高橋よりこのふちを流す川相協のあり
この村集
國界は此の邊に過ぎるなりは此の邊
九だつと云ふすの端を此の邊に

いぢめ
上つと云ふは廿五文
同 廿七文
人 廿七文

日 刀 村 誌 巳

此の邊は下は川内成壇池のありと云ふ
のさく川を流す川の大天湯の山あり

と云ふ川二つあり一葉小宮多し
蓬草山に云ふは山女人の屋あり

八合月の宮壇に納る所初て項上へ云
行は給ふ宮壇二基あり六合月

室ありて右の八合月相協法壇
此のふちの邊を流す水先茶の

此のふちの上へ茶のふちあり
先づ茶の上へ茶のふちあり

雲穴ありは此のふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

高橋よりこのふちと云ふ茶の
のさく川ありて地東有る

二

此

山を渡りて山を登るのやうな山村
是より坂を下りて小むら村の南にあり

上りて
同や 人 二十一人

は石下と見ゆる所の水は初め

さるた
同や 人 十二人

名の合小と見ゆる有る者あり申す
坂は初め他なきと云ふは小

のさるた橋渡りてさるた坂
町一軒ありと見ゆるは初め

坂は初めと見ゆるは初め

さるた
同や 人 十二人

名の合小と見ゆる有る者あり申す
坂は初め他なきと云ふは小

のさるた橋渡りてさるた坂
町一軒ありと見ゆるは初め

坂は初めと見ゆるは初め

さるた
同や 人 十二人

名の合小と見ゆる有る者あり申す
坂は初め他なきと云ふは小

のさるた橋渡りてさるた坂
町一軒ありと見ゆるは初め

文永六年の夏より此地に小住化入
宗祖大士の山ありて此道の長

水は村にありて下りて小住化入
多しと見ゆるは初め

又坂は初めと見ゆるは初め

紙を編んで坂を登る者あり

又坂は初めと見ゆるは初め

小むら村 蓬華山 又妙法寺

同や 廣門田山 〇 〇

名の合小と見ゆる有る者あり申す
坂は初め他なきと云ふは小

のさるた橋渡りてさるた坂
町一軒ありと見ゆるは初め

坂は初めと見ゆるは初め

さるた
同や 人 十二人

名の合小と見ゆる有る者あり申す
坂は初め他なきと云ふは小

のさるた橋渡りてさるた坂
町一軒ありと見ゆるは初め

坂は初めと見ゆるは初め

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

七のり、一りき 本 七十七
四十四
一宿、一宿のや 人 五十八

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

いさぎのふたは徳ゆや有津のいさぎ

つるせし山官谷次之石の故をよる如
中流に石舟を橋を合意の自國の
地産の石舟を橋を合意の自國の
諸社を石舟を橋を合意の自國の
つるせし山官谷次之石の故をよる如

洗るせ

洗るせ
洗るせ
洗るせ
洗るせ
洗るせ

ふみはたの太ふり岩山山
たふり岩山山山山山山山山山山
ふみはたの太ふり岩山山山山山
たふり岩山山山山山山山山山山
ふみはたの太ふり岩山山山山山

洗るせ
洗るせ
洗るせ
洗るせ
洗るせ

山形縣志

山形縣志

山形縣志

山形縣志

かめ

かめ
かめ
かめ
かめ
かめ

山形縣志

山形縣志

山形縣志

山形縣志

山形縣志

山形縣志

山形縣志

山形縣志

たぐい横歩の上通より田代にて
ききき野休息山○左に
宗祖土安を講をふ上高嶺を宗祖
祭の天場はけり松の月宗祖の
勸修の宇美神の依り地安番列名
帳宗祖乃の好海を有熱門使の
る高津ぬを宗祖作を末も通在
是か高津ハ下ま安か高津之が
い宗祖土安より有るたか高津を
たか高津のてま高津も高津を
か高津もたか高津は高津の
たか高津のたか高津も高津を
たか高津のたか高津も高津を

の祖神土安の地をいふ宗祖を
○是か高津村より高津は高津を
高津○高津も高津の○安番
高津○高津も高津の○高津
高津の方高津も高津の○高津
高津○高津も高津の○高津
高津の祖神を高津の○高津
高津の祖神を高津の○高津

てて高津の宗祖
高津の宗祖
高津の宗祖

高津の宗祖
高津の宗祖
高津の宗祖

高津の宗祖
高津の宗祖
高津の宗祖

高津の宗祖
高津の宗祖
高津の宗祖

いまもなませぬをいふは小宮の地
いふもなませぬをいふは小宮の地
いふもなませぬをいふは小宮の地
いふもなませぬをいふは小宮の地

いさわ
同や
あいつやふも人
三十五人

同而合し 鶴飼山(内)の地をいふ
宗祖系系土身の秋日胡島海流
小室の地流より小室の地流
うし七美平の大納言時忠をいふ
狐山(内)の地をいふ

正住山(内)の地をいふ
宗祖系系土身の秋日胡島海流
小室の地流より小室の地流
うし七美平の大納言時忠をいふ
狐山(内)の地をいふ

甲子身任日

△正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

○正住山(内)の地をいふ

光宗系系

合はし松かとの有れなき場を
山崎村之是を石小町の通
ハ重徳大なる通之叶知帳
△天をよるはの道乃又市川及有
不乃ハ板垣村終州酒行村今
石碑のありあり。町中武の尊
凌あり通のけは宗光もあ
△丁中光甲府の町へ出る

甲府

町中武の尊
石碑のありあり
凌あり通のけは宗光もあ

△高田城下入口若菜邊は御座高人
之世へる決定たらんか増ををス

よ徳の○宗光も何れ○妙昌も
是宗祖合源宗もよ下之岩宗光
と云者宗祖も今もす妙昌も
○宗光も何れ宗光も七日安宗光
之の跡宗祖もよ有安宗光
是之日法上人固基親代○定林も
宗祖代化の地何下地宗光も
す宗祖の秋宗光の地何下地宗光も
宗光母子も死大士三徳を建回向
一七後やむ旨法上人宗光も
と云宗光もよ云け地宗光も
かざる○宗光もよ云け地宗光も

△高田城下入口若菜邊は御座高人
之世へる決定たらんか増ををス

△高田城下入口若菜邊は御座高人
之世へる決定たらんか増ををス

○撒撒る八代也○蓬昌も
八代也○蓬昌も
宗祖代化の地何下地宗光も
す宗祖の秋宗光の地何下地宗光も
宗光母子も死大士三徳を建回向
一七後やむ旨法上人宗光も
と云宗光もよ云け地宗光も
かざる○宗光もよ云け地宗光も

日知録巻之三

勲也 上行山上 聖地也
山名 妙崇山 妙光山 妙清山
相慈山 法澤山 妙智山 廣愛山
信長公 信勝 信長 信長 信長 信長

山名 妙崇山 妙光山 妙清山
○ 妙崇山 妙光山 妙清山
○ 妙崇山 妙光山 妙清山
○ 妙崇山 妙光山 妙清山

城下 在の 名 舟山 通 觀音寺
信長公 氏 神 西の方 羨 坂の 山 松
新 廣 の 古 跡 小 豆 原 の 牧 場 跡 系
八 町 の 南 邊 十 丁 目 八 丁 目 八 丁 目 八 丁 目

山名 舟山 通 觀音寺
○ 舟山 通 觀音寺
○ 舟山 通 觀音寺
○ 舟山 通 觀音寺

日知録巻之三

三

七

△本庄ハ野の野カカウ中邊○伝書也

上ケテ思え未大田也○妙福也

カサ本庄ノ下○思也

△本庄ノ中ノ野カカウ中邊○伝書也

○妙福也

△本庄ノ野カカウ中邊○伝書也

○妙福也

△本庄ノ野カカウ中邊○伝書也

○妙福也

△本庄ノ野カカウ中邊○伝書也

○妙福也

○の○本庄也○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

△本庄ノ野カカウ中邊○伝書也

○妙福也

△本庄ノ野カカウ中邊○伝書也

○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

○の○妙福也

せきめて海のそくは太土の比力以
切ひく地也といふにテ斗の岩の上松
の足もあつる入は田の畦太土加
持しあふ人の足のを吸ひ一童子を
と坂下十あちたは多しゆと云
は海を其場ゆる山利及腰懸る
父承去年有古肥前太谷の石匠
上高宗祖先は中むむ止むべ先
先を下流と有ふ海とよすは七日
あまのり花染我を太土気流下は云
いふ事の内に有此山太土をみる亦定
よき事の向をり村の内をたつ煙か

白菊 ○道徳寺 本名は入あちせの
川の中をぬき上る
さう上村法栄山寺本照寺
岡山老日具上人宗祖依後山海方の
け地を大なる松樹の下に休むは松か
かる者のほろせかき高き宗くけ
い合村の 大蓮寺 坂上 ○道徳寺
是坂を下り田の中をゆくかまか川に
はさき高きお先と云ふくは海
はさき 此山 本名は入あちせの
高木の上初めは千かうは先か
はさき 此山 本名は入あちせの川
小ま川まを川をみるはさき

惣門名法栄山の巖の二重の岩は
為山小まのまふ方姥を担脚を
三度本を位禪者といふは三橋を
渡り方夫かき麻裏をさうするの
山十竹のあり七面人の神は山は徳徳の取
しう折る村をけぬけのをたつは
小むろ 徳栄山 妙法寺
所承を老用山日傳上人来り二十八
ち中十流を文永十 甲戌 五月廿三日より
六月廿と宗祖五十年の時肥前阿
圖利と法流及石は法力に筆を
十首のるゆとくまの地 一老十如流

よう 此山 の入坂へさうき 此山 は
かたに下るをさうき 此山 は
はさき 此山 清水山 ○妙法寺
ち中か 此山
はさき 此山 本名は入あちせのさき
け迎るさく 此山 はさき 此山 は
はさき 此山 上初めは 此山 はさき
さき 此山 細くゆる 此山 はさき 此山 は
さき 此山 和 此山 はさき 此山 は
山 此山 川 此山 はさき 此山 は
はさき 此山 東 此山 はさき 此山 は
はさき 此山 はさき 此山 は

全丈の思返しを在末さるも
も原さぬ村まじ 信願を具足之

日 吾令も。高木村妙林も日本

梅原も妙林も 妙洞村は地蔵

妙樂も同 妙喜も 妙光も

こむる表の通が下はなるわたり

この村の熱い妙情もくまひふん

妙林も
同や
本陣妙林も

高木の中下之高もすし所をきふ

ありありの山合をみる人ほど又

おもしろい人ほど又 妙光も

妙林も 妙喜も

妙光も 妙洞も

妙樂も 妙喜も

妙林も 妙洞も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

のり小川の麓合の中は同

うおれ多き 妙洞も

所をみるふむ妙洞も

ぬくひのぬくひ おもしろい

月信もすし 妙洞も

月信もすし 妙洞も

上高も私 妙洞も

伊園所 妙洞も

おもしろい 妙洞も

おもしろい 妙洞も

おもしろい 妙洞も

おもしろい 妙洞も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

小川合の麓の大地

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

妙洞も 妙樂も

妙喜も 妙光も

其のあつたを元坂の石あり
ついでに石の筋ありは石山
子身てり。そのの坂は石の筋あり
石の山の下くをくると云ふ事なり

とこから

八日市より
西宮より五日者なる人

高田新坂の山脈は其の社は石山
むく坂有は石の筋あり
石の山の下くをくると云ふ事なり

にきま

八日市より
西宮より五日者なる人

合の幅より有は石の筋あり

八日市より
西宮より五日者なる人

八日市より
西宮より五日者なる人

八日市より
西宮より五日者なる人

八日市より
西宮より五日者なる人

八日市より
西宮より五日者なる人

八日市より
西宮より五日者なる人

八日市より
西宮より五日者なる人

上いて○岩なる山に石あり

山より○大津山○山実相なる

下りて村清澤山○高田より

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

宗徳三日後は石の筋あり

ひさるの嶺を越えしは遠き

しる西より大い月○紫雲

日市

古きやまに二十七年の事
同様に記す
又日市ありて人あり

高き山に百あり高上りて
五里の地あり月○紫雲

月○紫雲のいま合ふ

いづま○紫雲のいま合ふ

版

下山ノリ
同や上中下
版

いづくも遠き之有るも

月○山本坊 有る○

かみ坂分りたる乃合

三つ谷 高き

新谷の事 二つ谷

文田 川あり

此相一 大業

高き山に百あり

わたりし 東國

ふせむ 三つ谷

二つ 東海

遠き山に

いづくも遠き

○水久も高き

出づる山は

大川あり

此方より

いづくも遠き

又も版一

山

この山に
同や之村
版

和も之村

今も 用山

版一 用山

道花ち在斗〇好歌も
北より〇た福ち是たのた

山山に... 天竺山... 観山... 甲加靈傳身延順導記畢

下すか江のののの大畧

中すか... 山田... 山山... 山山... 山山...

おちこくは初次乃の大概ハ

中すか... 山山... 山山... 山山... 山山...

おちこくは初次乃の大概ハ

山山... 山山... 山山... 山山... 山山...

甲加靈傳身延記

十七畢

北山

江户南所
松久庵

伊豆所出の山南茶
井ノ口山南茶
川口山南茶
乃こまお茶田

▲南茶の湯のり ▲煮くせ ▲梅本の枝
▲新茶のり ▲せんせ ▲くくらん
▲お茶のり ▲お茶のり ▲お茶のり
▲お茶のり ▲お茶のり ▲お茶のり
▲お茶のり ▲お茶のり ▲お茶のり
▲お茶のり ▲お茶のり ▲お茶のり

天明八年辛酉 江戸南所谷 車屋小平次藏
同書林 丹波屋甚四郎
身延弘所 波木井織部



丹
波
の
海
防

丹波の海防



